

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の研究対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名 (承認番号)	高齢者の進行再発膵がん患者におけるゲムシタビン・nab パクリタキセル療法の至適投与量と好中球減少症のリスク因子についての多施設共同研究
当院の研究責任者 (所属)	薬剤科 大原 正之
他の研究機関および各施設の研究責任者	秋田赤十字病院 薬剤部 田口 伸(代表研究責任者) 由利組合総合病院 薬剤科 遠藤 征裕(共同研究責任者・事務局) 雄勝中央病院 薬剤科 高橋 久樹(共同研究責任者) 大曲厚生医療センター 薬剤科 相場 悠樹(共同研究責任者) 由利組合総合病院 薬剤科 伊藤 郁恵(共同研究者) 北秋田市民病院 薬剤科 佐藤 家恒(共同研究者) 市立秋田総合病院 薬剤部 梅田 慎也(共同研究者) 平鹿総合病院 薬剤科 酒井 良隆(共同研究者) 秋田赤十字病院 薬剤部 佐藤 優弥(共同研究者) 秋田赤十字病院 薬剤部 柳田 真樹子(共同研究者) 秋田大学医学部付属病院 薬剤部 鏡谷 舞子(共同研究者)
本研究の目的・概要	高齢者膵がん患者に対してのゲムシタビン・nab パクリタキセル療法(以下、GnP 療法)の至適投与量を検討する。また、GnP 療法における副作用である好中球減少症のリスク因子を解析する。
調査データ 該当期間	患者背景(年齢、性別、体表面積、PS、がん原発巣、手術歴の有無、転移の有無、喫煙歴の有無)、血液所見(WBC、Hb、PLT、好中球数、ALB、T-Bil、AST、ALT、Cre、CRP、CEA、CA19-9、DUPAN-2、SPAN-1)、腫瘍部位の所見(膵頭部、膵体部、膵尾部)、転移の有無と転移部位の所見(肝臓、肺、胸水/腹水、リンパ節、副腎、腹膜播種、骨など)、Stage 分類、GnP 療法の Relative dose intensity(以下、RDI)、副作用について(好中球減少、白血球減少、Hb 減少、PLT 減少) 調査期間:2015年1月1日～2021年3月31日
研究の方法 (使用する資料等)	●対象となる患者さま 研究医療機関にて GnP 療法を導入された患者 ●利用する情報 臨床情報を電子カルテより取得
資料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	研究対象者に符号もしくは番号を付与し、対応表を作成する。対応表は研究責任者が鍵の掛るキャビネットに保管し、自施設外に個人を直ちに判別できる情報の持ち出しは行わない。調査により得られた情報の集積・統合はセキュリティーに配慮し各病院のやり取りはセキュリティー便などを使用し情報の集積・統合を行う。

	<p>本研究結果が公表される場合にも、研究対象者個人を直ちに判別できる情報を含まないこととする。また、本研究の目的以外に、本研究で得られた情報を利用しない。</p>
<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>個人情報の取扱いに関して、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守する。調査により得られた情報を取扱う際は、研究対象者の秘密保護に十分配慮する。特定の個人を識別することができないよう、研究対象者に符号もしくは番号を付与する。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>電話:0185-52-3111(代表) 薬剤科 大原 正之</p>
<p>備考</p>	